

としひで  
おわりに 片岡利英氏の切子作品

片岡利英氏(1909~2002)は、14歳の頃、天満の切子職人に弟子入りしました。昭和8年(1933)に片岡硝子研磨加工所を設立し、食器を主に制作しました。戦時下は一時休業しましたが、昭和22年(1947)に東淀川区柴島にて再開しました。昭和48年(1973)にライト照明を設立し、照明用硝子の制作販売を行っています。本館では、利英氏が自らの技術を高めるために制作した切子の作品を所蔵しています。



わりざんしょう  
切子植物文割山椒形ガラス鉢  
本館蔵(片岡利英氏寄贈)



けっしょう  
切子藍被せ結霜一口ビールコップ  
本館蔵(片岡利英氏寄贈)

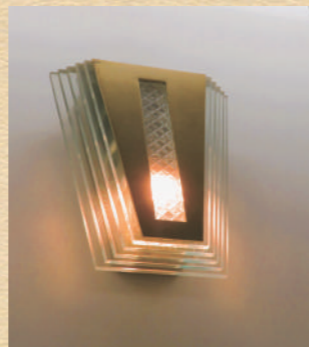


切子藍被せ酒器形ガラス花入  
昭和戦前期 本館蔵  
(片岡利英氏寄贈)

つのだる  
角樽を模し、円形などの切子がほどこされています。幕末から明治初期に薩摩藩で誕生した薩摩切子の技法に影響を受けていると考えられ、技術力の高さと先進性が感じられます。



花切子サンドブラスト  
はら  
薔薇文釣花入  
本館蔵(片岡利英氏寄贈)



ライト照明制作の切子照明  
大阪心斎橋の地下街・クリスタ長堀にあります。この他にも同社制作の切子の照明が、大阪市中央公会堂(北区中之島)などにもあり、大阪の街を照らしています。

関連行事.....

● 展示解説

- 【日時】①令和8年4月29日(水・祝)、②5月30日(土)③6月28日(日)  
いずれも、午後2時から30分程度
- 【担当】猪岡叶英(本館学芸員)
- 【会場】本館 8階 特集展示室
- 【参加費】無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要です)
- 【参加方法】当日直接会場へお越し下さい。(事前申込不要)

● わくわく子ども教室「まちこうばクイズ〜クロスワードパズルにちょうせん〜」

- 展示のミニ解説(20分程度)を行った後、クロスワードパズルを解きます。
- 【日時】①令和8年5月4日(月・祝)②5月5日(火・祝)  
いずれも、午前10時および午後2時30分から1時間程度
- 【担当】猪岡叶英(本館学芸員)
- 【会場】本館 8階 特集展示室
- 【定員】各回先着20名(受付時間:各回の15分前)
- 【参加費】無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要です)
- 【参加方法】当日直接会場へお越し下さい。(事前申込不要)

● なにわ歴博講座「町工場を支えた人びと -大阪の切子職人の技とこころ-」

- 【日時】令和8年6月20日(土)
- 【講師】猪岡叶英(本館学芸員)
- 【会場】本館 4階 講堂
- ※詳細は、決まり次第本館ホームページにてお知らせします。

🌀 特集展示 たんけん! とよりの町工場 🌀

会 期 : 令和8年(2026)4月8日(水)~6月29日(月)  
会 場 : 大阪歴史博物館 8階 特集展示室(常設展示場内)  
主 催 : 大阪歴史博物館  
展示担当者 : 猪岡叶英  
開館時間 : 午前9時30分~午後5時 ※入館は閉館の30分前まで  
休 館 日 : 毎週火曜日、ただし5月5日(火・祝)は開館。

観 覧 料 : 大人600円(540円)  
高校生・大学生400円(360円)  
※( )内は20名以上の団体割引料金  
※中学生以下・大阪市内在住の65歳以上(要証明証提示)の方、障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料



切子の粗ずりの様子  
(本館撮影)



特集展示



たんけん!  
となりの町工場

2026 2026  
4.8 水 → 6.29 月

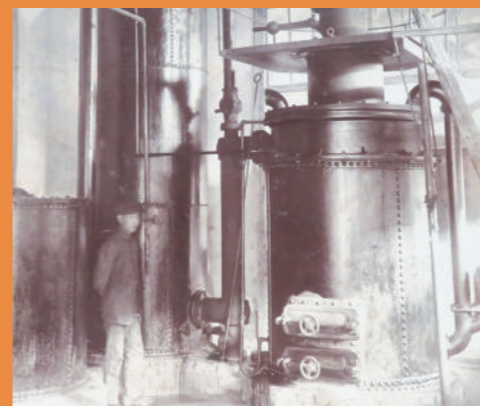
※火曜日休館  
ただし5月5日(火・祝)は開館



8階  
特集展示室

常設展示観覧券でご覧いただけます

大阪歴史博物館  
Osaka Museum of History



吸入瓦斯発生器配置の写真(本館蔵)



## はじめに 産業都市としての大阪

明治初期の大阪は、明治維新の影響によって経済が低迷していましたが、大阪砲兵工廠と造幣寮（現在の造幣局）という二つの官営工場をきっかけとして産業都市として発展し、明治末期から繊維産業や機械金属工業が盛んとなりました。大正期から昭和初期にかけて、臨海部や北東部を中心に工場が増加していきませんが、その多くが数人から数十人規模で独自の製造技術に特化した、町工場でした。大阪市内の町工場に関する大正・昭和期の資料を中心に展示し、現在のわたしたちの暮らしに身近なものづくりの歴史を紹介します。

### 1. 鉄工所の製造品

鉄工所では、鉄を中心とした金属の切断、溶接、組立、取付などを行います。大阪市の臨海部に多い鉄工所では、明治期以降、船舶の建造や修理、船舶用汽罐（ボイラー）などが製造されました。本館には、大阪市大正区にあった鉄工所で製造された発動機の写真（右の写真）があります。この鉄工所では付近に製材所が多かったことから製材機械も製造しました。



村田製材所の写真 大正期 本館蔵

筏師が貯木場から村田製材所に木材を運搬してきた様子をとらえています。村田製材所は、明治39年(1906)に創業し、大正区いずみの泉尾濱通にありました。



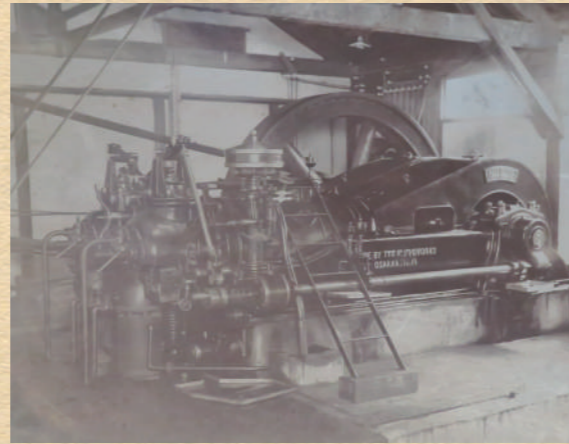
材木市売写真のうち千島市場 昭和17年(1942) 本館蔵

### 2. 木材市場と貯木場

大阪市の木材市場は、江戸初期の立売堀川にはじまり、西長堀や境川運河に移り変わっていきました。大正7年(1918)には、大阪木材市場株式会社が創立され、大正区(当時は西区、大正14年に港区)に千島町共同市場(小林町市場)が設置されました。同区内の大正運河に木材を保管する貯木場が整備され、付近の小林町や千島町に製材所が軒を連ねました。戦後、港湾部に近い小林町一帯は高潮や台風の被害を度々受け、大阪湾の内港化計画に伴う土地区画整理事業の対象とされ、昭和30年(1955)頃からかさ上げや埋め立て工事が始まり、貯木場は、住之江区(当時は、住吉区)平林に移転しました。



大砲製造所門鑑札 明治期 本館蔵  
大砲製造所は、大阪砲兵工廠の明治初期の名称でした。



硫酸肥料株式会社発動機の写真 大正期 本館蔵  
漂白剤などを製造した堺市の会社の動力源として使われました。

## 3. 大阪の切子の展開

切子は硝子の表面に、研磨材や水を流し、回転する円盤(ダイヤモンドホイール)で切り込みを入れ、硝子に模様をあらわしたものです。模様には、菱切子、花切子、玉切子などがあります。大阪の切子は、長崎で吹き硝子の技術を習得した播磨屋清兵衛が江戸後期の宝暦年間(1751~1764)に来阪し、天満天神(大阪天満宮)の門前で硝子の制作を始めたことが起源とされています。明治末期から昭和初期にかけて、天満(北区同心町・与力町)の切子職人を中心に食器などが制作され、国内だけでなく、アジア各地に輸出されました。昭和30年代からプラスチック製品の台頭や硝子製造の機械化が進展し、平成期以降の問屋廃業に伴い切子職人は減少傾向にあります。しかし、培われた技術を活かし、照明用硝子の制作への転換や大阪切子としてのブランド化などが図られています。

\*形あるものを作る際は、「製作」が用いられることが一般的ですが、本展では、切子職人が使用することが多い「制作」を用いています。



大阪ガラス発祥之地の碑 大阪天満宮の表大門の左にある石碑。



玉栄講の石灯籠(住吉大社) 文政11年(1828)に硝子制作業者と販売業者が奉納しました。

### 切子の主な制作工程

#### (1) 割り出し

切子の模様の目安となる基本線を硝子の表面に描きます。

#### (2) 粗ざり

水を付けながら幅の狭いダイヤモンドホイールで大まかな形を削り出していきます。



① 粗ざりの見本

#### (3) 石かけ

目の細かいダイヤモンドホイールで粗ざりの表面を研磨して滑らかにします。



② 石かけの見本

#### (4) 磨き

コルクやゴムベルトを回転させながら磨き粉を付け、硝子の加工面を透明の状態に仕上げます。



③ 磨きの見本

①~③は、片岡伸二氏(ライト照明)考案、藤本硝子加工所制作。

### 切子の制作で使用する主な道具



#### ① ダイヤモンドホイール

粗ざりで研磨に使用し、砥石の部分には工業用のダイヤモンドが用いられています。



#### ② 硝子研磨用砥石

石かけで使用し、粗ざりの表面を研磨して滑らかにします。ダイヤモンドホイールが普及する以前に使用されました。



#### ③ 鉄板を削るヤスリ

ダイヤモンドホイールが普及する以前の粗ざりでは、砥石の部分に鉄板が使用され、摩擦することがあったため、市販のヤスリを加工し、削っていました。



#### ④ 砂たらし先

研磨時に金剛砂(石榴石)と水と一緒に流すために使用しました。

①~④は、すべて本館蔵、片岡正行氏寄贈。